

涙の手紙

コリントの信徒への手紙Ⅱ二章一一節

私は苦悩と憂いに満ちた心で、涙ながらに手紙を書きました。それは、あなたがたを悲しませるためではなく、……溢れるばかりの愛を知つてもらうためでした。（4）

コリント教会の問題を伝え聞いたパウロは第一の手紙を書いた後、コリント教会を訪問しました。その際、教会を立て直すためにかなり思い切った発言をし、また「処罰」（二六）も行いました。しかし、それらは解決をもたらしませんでした。どんなにパウロが熱心に語つても、神ご自身が彼らに働きかけてくださらない限り、問題は解決しないことをパウロは深く悟りました。パウロに出来る残された一つのことは、涙を流して神に祈ることでした。その涙の祈りの中から、「涙の手紙」と呼ばれる書簡が記されました。パウロがどれほど彼らを愛し、主なるキリストにしつかりと結びついて欲しいと願つているかを伝えるためでした。教会はこのパウロの愛を受け継ぐ者たちの群れです。人々がキリストのもとに立ち返るのを願つて、悲しみを担いつつ、涙の祈りを神にささげるのであります。